

平成 30 年度「自己評価報告書」

社会福祉法人愛護会
第二東水沢保育園

I 保育目標

- 健康で明るい子ども
- 自分のことは自分でできる子ども
- 自然に親しみ、愛することのできる子ども
- 人の話をしっかり聞き、自分の意思を言葉で話せる子ども
- なぜだろうと考え、物事に疑問をもつ子ども
- 他人のことを考え、協力できる子ども
- 豊かな心を持つ子ども

II 施設運営の重点課題

- 保育内容の充実
- 障がい児保育の充実
- 職員の資質向上
- 風の子農園運営
- 食育指導の充実
- 地域社会や社会資源の積極的活用
- 子育て支援活動の推進と地域福祉の向上

評価の基準

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組んでいるが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

III 評価項目と取り組み状況

自己評価項目			評価	取り組み状況
1	保育内容の充実	・たくましい子を生み育てるために、乳幼児の健全な発達をめざして保育内容の充実を図る。	B	・保育所保育指針を職員間で読み合い、研究し合った。 ・子ども一人ひとりの発達について、その過程や特徴に応じた保育を行った。 ・子どもの生活や遊びを通し、養護と教育が相互に関連を持つ保育を展開することができた。
2	地域社会資源の積極的活用	・地域の人的、物的社会資源を活用し多様な体験、多様な感動を育てることにより、意欲ある生きる力を育てる。	A	・3～5歳児で岩谷堂高等学校に行き、獅子踊りクラブの方々の力強い踊りを見せていただき感動した。 ・文化祭には水沢第一高等学校邦楽部の琴の演奏や水沢高等学校合唱部の方々からは、子ども達の大好きな歌を振り付けでメドレーにして聞かせてもらい、一緒に踊り楽しんだ。 ・冬には4・5歳児がひめかゆスキー場にそり滑りに行き、たくましい身体、心を育てることができた。
3	風の子農園運営	・野菜を育てることで植物の成長や変化に興味や関心をもたせる。 ・野菜の世話を通して働	B	・各クラスでうねを別にして30種類もの野菜を育てることを通し、花・葉・実や育ちが違ふ事、似ている事など発見することができ、次はどうなるのかと期待し理科の基

		く事の尊さや喜びを育てる。		礎力を育てることができた。 ・できた野菜をさまざまな料理にし、食べる楽しみや意欲が育った。保護者参加の農園作業もできた。
4	障がい児保育の充実	・発達過程や様々な障がいに応じた保育が出来るよう、家庭、保育園、専門機関と連携を取りながら障がい児保育の充実を図る。	A	・県立療育センター・市幼児教室またその他の専門機関の方々と発達について詳しく検討し保育を進めることができた。 ・幼児教室・保護者・園と連携して保育を進めた。 ・子ども達は障がい児、健常児共に支えあい交流しあって育っている。
5	子育て支援活動を通し地域福祉推進の向上	・地域の子育て支援活動の推進に努めるとともに地域福祉向上を図る。	B	・家庭に発信するクラスだよりに子育てコーナーを設け家庭保育、親の対応などのアドバイスをを行った。 ・低年齢児は特に個別連絡帳で子どもの成長発達を伝えた。毎日クラス全員分の記入は難しいことがあるが、子ども達の成長、保護者の成長には効果があり、子育て支援となった。
6	食育指導の充実	・保育参加日を利用し親子クッキングを行いながら食の大切さや料理への興味を高め食育の指導を行う。	A	・畑で収穫した野菜やプランターで育てた野菜をクラスごとに様々に工夫して料理作りを楽しむことができた。 ・保育参加日にも親子クッキングを行い、食の大切さや、作ることの楽しさも経験できた。保護者の料理のレパートリーを増やす参考にさせていただくことができた。 ・文化祭でも給食試食や子どもにとって体によい食事などの展示も出来た。
7	職員の資質向上	・各種研修会への参加、保育事業部会研修及び園内研修を深め子どもの発達を尊び保護者、地域住民に信頼される力量を備えた保育者を目指す。	B	・保育所保育指針の改訂や小学校との連携カリキュラムが変わり、改めて全職員の学習会をもった。保育事業部会として宮城女子大学より磯部裕子先生を招いて講演を2回受けた。今後も磯部先生の講演を受けながら学び合いたい。